

秦野市水道事業計画(経営戦略)と決算との比較

資料4

1 収益的収支(3条)予算

(単位:百万円)

区 分		平成30年度		計画値と決算 の比較(b)-(a)	主な増減理由
		計画(a)	決算(b)		
収入	給水収益	2,253	2,228	△ 25	人口減少の影響により、計画で見込んだ給水人口より減少しているため
	水道利用加入金	124	119	△ 5	
	その他収益	178	146	△ 32	28年度に組織統合し、料金徴収委託を両事業会計からの直接執行としたため
	合計A	2,555	2,493	△ 62	
支出	受水費	549	480	△ 69	県水の基本料金単価が引き下げられたため
	減価償却費等	709	665	△ 44	建設改良事業費が減額したこと等によるため
	支払利息	163	139	△ 24	建設改良事業費が減額し、計画で予想する企業債残高よりも実績が少ないため
	維持費等	906	854	△ 52	28年度に組織統合し、料金徴収委託を両事業会計からの直接執行としたため
	合計B	2,327	2,138	△ 189	
純損益A-B		228	355	127	

(注1)計画とは、計画期間H28～H37の「水道施設整備計画」と「財政計画」からなる「秦野市水道事業計画」を指します。

(注2)平成26年度会計制度変更に伴う長期前受金及び補助金等の減価償却費等は、収益的収入及び収益的支出それぞれから差し引いて集計。

## 2 資本的収支(4条)予算

(単位:百万円)

区 分		平成30年度		計画値と決算 の比較(b)-(a)	主な増減理由
		計画(a)	決算(b)		
収入	企業債	400	194	△ 206	入札差金等により実支出額が計画値より減額したため
	その他収入	7	38	31	県補助金の交付を受けたため
	小計	407	232	△ 175	
支出	建設改良費 (施設整備費)	984	514	△ 470	工事の進捗が遅れているため
	建設改良費 (事務費)	100	77	△ 23	
	企業債償還金	486	486	0	
	その他支出	11	32	21	県水受水費の減額があったため、基金に積立てることとしたため
	小計	1,581	1,109	△ 472	

## 3 補填財源残高

区 分	平成30年度		計画値と決算 の比較(b)-(a)	主な増減理由
	計画(a)	決算(b)		
補填財源残高	952	1,563	611	県水受水費の減額や、4条予算の執行額の減額などにより、計画よりも利益が増額したため。